2019年01月25日 中日新聞 朝刊 14頁

愛教大生 PAに土産売り場

刈谷オアシス期間限定「三河」「尾張」を紹介

土産品販売を通して県内の観光情報を発信し人を呼び込もうと、刈谷市の愛知教育大の学生が企業と連携して作った売り場が二十四日、同市東境町の複合施設「刈谷ハイウェイオアシス」内に登場した。二月十四日までの期間限定。「三河」と「尾張」で一社ずつ土産を並べ、人気投票もしている。（神谷慶）

きっかけは、観光振興を進める学生の企画を募り表彰する県の事業「あいち学生観光まちづくりアワード」。オアシスを会場に土産と観光情報を同時に紹介して誘客につなげる企画が、昨年度の最終選考まで進んで敢闘賞を受けた。県の統計では、オアシスの利用者は二〇一七年の一年間で八百八十四万八千人。施設別では中部国際空港に次いで多い。

企画は愛教大の西尾圭一郎准教授(四〇)のゼミで経済学専攻の学生らが、下りパーキングエリア（PA）を運営する近鉄リテーリング（大阪市）の社員の助言を受けながら考え、約一年半を経て実現した。同社は地域貢献の一環で学生が選んだ商品を仕入れ、場所を提供。実際に販売も協力している。

売り場は下りパーキングエリアにある「近鉄パークハウス」の一角。学生が昨年六月から班に分かれ、おいしい土産を探しながら県内の観光地を巡った中から選んだ二社の計九品を並べた。「三河」では豊田市の工場で作られ、みよし市の直営店などで販売されている洋菓子ブランド「名古屋ふらんす」の三品を選択。売り場には自作ポスターを張り、商品説明だけでなくトヨタ会館（豊田市）や岡崎城（岡崎市）といった観光地を写真で紹介し、チラシや冊子も並べた。

「尾張」は名古屋市千種区の紅茶輸入・販売「えいこく屋」のドライフルーツと紅茶のセットなど六品。えいこく屋に近い「覚王山日泰寺」などをポスターで紹介している。

二十四日は売り場で近鉄パークハウスの豊田康彦支配人(五一)らの助言を受けながら、学生らが「ここをもっと目立つようにしよう」と意見を出し合った。四年生の福田美咲さん(二一)は「お客さんが足を止めてくれるか不安だったけど、多くの人に興味を示してもらえてうれしかった。名古屋城や栄、名駅だけではない県内の観光地の魅力を知り、注目してほしい」と話した。

観光地の魅力が伝わる売り場にするよう意見を出し合う学生ら＝刈谷市の刈谷ハイウェイオアシスで

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています